

# プログラミング楽しいよ

## 刈谷の小学校 愛教大と企業が授業

コンピューターを動かす命令書を作成する「プログラミング」を学ぶ教育が、二〇二〇年以降に小学校で必修化される方向となる中、大学と民間企業が連携した先駆的な授業が、刈谷市の双葉小学校であった。

指導したのは、サイバーエージェント(東京都)のグループ会社「CA Tech Kids」の社員と、愛知教育大(同市)の磯部征尊准教授のゼミ生。五月二十日から五

回にわたって、基本的な操作を教えた。六年生は、ネコやサルなどのキャラクターが登場する自分だけのゲーム作りに没頭。「10歩動かす」「クリックされたら10回繰り返す」など、キャラクターに指示を出す日本語のブロックを動かして、イメージ通りのゲームを組み立てた。ネコがネズミを追い

掛けたり、ゴースト(幽霊)を避けて落ちてくる星を集めたり、児童の作ったゲームは個性豊か。山口紋奈さん(こ)は「難しいところもあるけど、問題が解決すると楽しい」とのめり込んだ。同社の上野朝大社長(三)は「限られた時間にもかかわらず、予想以上にのみ込みが早い」と子どもの適応力に舌を巻いた。プログラミング教育は一・二年度に中学校の技術・家庭科で必修になった。産業競争力を高めようとする政府はさらに小学校からの導

入に積極的。文部科学省は四月、有識者会議を設けて必須化の検討を始め、会議は今月議論をとりまとめた。これを受け、本年度中に中央教育審議会が二〇一六年からの学習指導要領を改訂する予定。愛教大と同社は、今回を含め実践を通して、学年に応じた教育

課程や指導方法の確立を目指していく。指導する教員の育成もこれからの課題。磯部准教授は「中学の技術、高校の情報を専門とする教員との連携や、大学や教育委員会による研修の充実を進める必要がある」と話している。(土屋晴康)



自分だけのゲーム作りに夢中で取り組む児童たち＝刈谷市の双葉小で